

### 1. 授業の概要

本科目は、幼稚園教育要領における領域「言葉」の指導法を取り扱う科目である。幼稚園1種免必修・2種免選択の科目であり、幼児教育及び保育士コースの必修科目でもある。

講義の前半では、言葉の指導を行う上で基礎的な知識となる、言語獲得理論、言語獲得の発達の基盤および話し言葉の発達について取り上げ概説した。授業の後半では、「幼児期の幼児期の自己主張と保育者による支援」をテーマとして、附属幼稚園にて実際に子どもと保育者の支援の様子を観察した。観察した内容は、事例として書き起こし、内容を整理・分類してレポートとしてまとめた。

### 2. 受講生

受講生は47人であり、内訳は2回生43人、3回生3人、4回生1人であった。また、幼年教育サブコース6人、小学校サブコース30人、中等教育コース1人、特別支援教育コース10人であった。受講者数が想定以上に多かったことから、観察は2グループに分けて実施した。1グループが観察している間は、もう1グループはビデオ教材を視聴し、課題に回答することとし、交互に観察を行った。最低2回は観察する機会を確保した。

### 3. 授業の成果

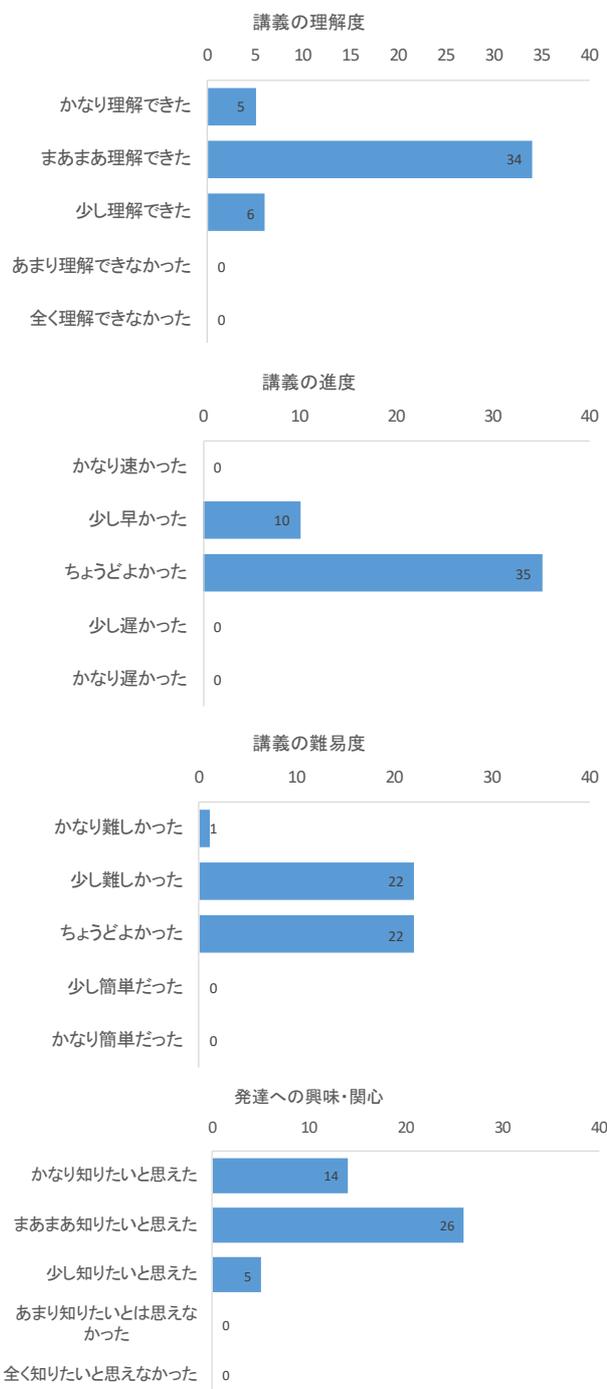
受講生は、各学年のクラスごとに子どもの様子を観察するグループと保育者の支援を観察するグループに分かれて観察を実施した。

事例の分類においては、基準を設けて事例を分類していくグループと事例の内容からボトムアップ的にカテゴリを作っていくグループに大きく別れた。書き起こした事例全体を眺め、どのような基準を設けることができるのかを考えているグループほど最終的な説明が、より整合的なものとなっていた。

### 4. 授業評価

講義の理解度（授業の内容は理解できたか?）、進度（授業の進度は適切だったか?）、難易度（授業のレベルは適切だったか?）、発

達への興味・関心（講義を通してさらに乳幼児の発達について知りたいと思えたか?）について、無記名で回答を求めた。



進度については、概ね適切であったと思われるが、内容が少し難しかったことが伺える。提供する情報の量と質を見直して、講義の理解度と乳幼児期の発達への興味・関心をさらに高められようになりたい。